

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	それぞれのスタッフが「前向きな実践力不足」や、「チームケアの停滞」を感じる中、センター方式を有効に活用する事や、カンファレンスを充実させる事の大切さについて、今年度の事業計画立案時や、人事考課育成面接にて再確認した。今後、そのモチベーションを維持し、チームで支え合って前向きな実践につなぐ事で、チーム力を高めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ご利用者の重度化や認知症の症状の進行に伴い、その時々に見せられる様子にご家族や地域の方も不安や戸惑いを感じられる事が増えてきた。暮らしの中でご利用者の様子や思いをきめ細かく伝える事を繰り返しながら、ご利用者の現在を受け入れてもらえるよう働きかけ、「その人らしい暮らし」について、ともに考えていける関係を強めて行く必要がある。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	大規模な総合施設でもあり、近隣の方にとって、少し塀が高い印象があるのかもしれないが、法人行事に地域の方を招いたり、地域行事への参加の機会を持つ事や、ボランティアの受け入れなどを通して働きかけるとともに、ご利用者の暮らしの中でのかわりを通して、法人全体が、より身近な存在として感じてもらえるような関係づくりを進めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域との交流については、法人全体の取り組みとして進めている部分が多く、そこにグループホームも参加するという形をとっているが、今後、窓口となる担当者とも話し合いながら、グループホームの暮らしを地域の方に知ってもらう機会を検討していきたい。また、運営推進会議においても、地域との交流の機会についてアドバイスを受けながら検討していきたい。

グループホームたのやま

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症の方を在宅介護しておられる方から電話相談を受ける事が多く、アドバイスやサービス紹介などを行っている。介護者教室などで、実践を通して認知症ケアについて話をする機会を持っている。認知症サポーター養成への協力体制もとっている。各スタッフにも、常に地域にある課題に目を向けられような話し合いの機会を持つよう心がけている。	○	現在、法人の認知症ケア勉強会にて、介護者教室の実施や、若年期認知症の方へのアプローチを検討中である。また、併設のグループホームうえすぎ管理者と、地域に向けての認知症ケアの学びの機会について検討中である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で3度目の外部評価受診となるが、これまでの評価やアドバイスを活かして改善できた部分は大きく、スタッフにとっても自分達のケアをふり返る良い機会であり、第三者からの視点によって気づかされる事も多い。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議にて、ご利用者の暮らしの様子やご家族とのつながり、スタッフの状況、また、外部評価受診や事業計画、事業報告などについても、できるだけ詳しく説明し、それぞれの立場からの意見や感想を出し合い話し合っている。ご利用者の暮らしの中で、実際に協力してもらっている方や、在宅での介護経験のある方もあり、スタッフにとって、とても良い学びの場となっている。	○	今回の外部評価受診結果についても報告し、意見やアドバイスを頂く事としている。今後、ご利用者の暮らしの中でも、ますます、地域の方の力が必要となってくる場面が増えてくると思われ、地域においても、高齢者の方の暮らしにはたくさん課題があるため、会議の場を有効に活用し、互いに協力し合える関係づくりに努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上、分からない事や相談があれば連絡を取っている。運営推進会議に、高齢者介護課の担当者や地域包括支援センター職員が参加している事で、これまでより話し合いやすい関係ができている。	○	地域密着型サービスとなった事や、昨年、市の担当者の交代があった事もあり、今後、連絡を密に取り合い、サービスについて共に考えていける関係づくりを進めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	開設から現在に至るまでは、制度活用を必要とされるケースがない。管理者や法人のケアマネージャー、相談員などについては、制度について理解しており、必要な場合には活用に向けての支援が可能である。	○	スタッフにも学びの機会を持ち、今後、必要となった場合や相談を受けた際など、支援のできる体制を整えておく必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修や外部研修に参加し、そこでの学びを報告し、スタッフ全体で共有できるようにしている。また、虐待事例の報道などについても関心が持てるよう、法人全体で資料を配布し、チームでカンファレンスを行なっている。法人内にサービス質検討委員会を設置し、年1回、ご利用者、ご家族全てにアンケート調査を行ない、サービスに対する意見を聞いている。	○	日常の中で、自分達のケアがご利用者本位のものであるのかについて、ふり返る機会を繰り返し持っていきたいと思う。また、日々のご利用者やご家族の声、アンケート結果などを真摯に受け止め、サービスの質の向上に努めていきたい。スタッフのメンタルヘルスの視点からも、カンファレンスをくり返す事により、互いに支え合えるチームづくりに努めていきたい。

グループホームたのやま

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて説明し、同意を得ている。入所前からのご家族との関係づくりを大切にしよう心がけており、できるだけ不安に感じられる事のないよう、丁寧に対応し、信頼関係を築けるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	暮らしの中で、常にご利用者の思いをじっくりと聴き、表情や行動から、不安や不満を感じとれるよう努め、気づいた事に対しては、カンファレンスにて改善に向けて検討している。定期的に2名の介護相談員を受け入れ、ご利用者の話を聴く機会を持ってもらうとともに、スタッフとの意見交換の機会も作っている。	○ 認知症の症状の進行に伴い、思いの表出が難しくなってきた方が多く、今後、これまで以上に、ご利用者の表情や行動、言葉から思いを感じとれるように努力する必要があると感じている。また、常に、自分達のケアが、スタッフ中心になっていないか、カンファレンスにて振り返る機会を持っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、全てのご家族に手紙を郵送し、ご利用者の暮らしぶりや体調、スタッフの異動などについて報告している。ご家族の訪問も多く、その際にできるだけゆっくりと時間をとり、ケアについての相談や話し合いも行なっている。また、遠方で訪問が難しいご家族や、早急に報告や相談が必要な場合には、電話にて話し合っている。	○ ご利用者の重度化や認知症の症状の進行に伴い、その時々様子の様子に、ご家族も戸惑いを感じられる事が多くなってきた。今後、これまで以上にきめ細かい報告や話し合いの機会を持ち、ご家族にも、ご利用者の状況を受容してもらった上で、ご利用者の暮らしをともに支えていける関係を強化していく必要がある。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の苦情相談窓口、市の相談窓口、国保連の苦情相談窓口について書面に明記し、説明を行っている。また、法人のサービス質検討委員会にて、ご利用者、ご家族に対するアンケートも実施している。ご家族と話し合う機会を多く持ち、ご家族の思いをケアに反映するよう努めているが、グループホーム独自の家族会については、開設当初から検討しているが、発足にいたっていない。	○ 今後、継続して家族会発足について検討して行くとともに、ご家族同士の交流の場を設け、同じ立場の者として話し合う機会をもってもらい、そこから意見や要望を聞きだしていく取り組みも必要ではないかと考えている。また、法人全体での委員会活動や苦情相談窓口からの声を、全スタッフが真摯に受け止め、サービスの質の向上につなげられるような取り組みが必要である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のカンファレンス、毎月のスタッフ会議などにて、スタッフが意見や提案を言える機会を設け、反映させている。また、管理者やリーダーは、ひとりひとりのスタッフが、悩みや不安、思いを言いやすい環境づくりを心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在の人員配置の中で、ご利用者の状況やご家族の要望に合わせた対応をするための体制について、スタッフ間で話し合いの機会を持ち、勤務調整を行なっている。また、どうしても困難な場合については、法人内の他部署との兼務スタッフやパートスタッフの検討について、総合施設長と話し合い対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに、法人の新規事業（グループホームうえずぎ）開設に伴い、スタッフの異動を行なったが、その際は、開設準備の間に、次に配属されるスタッフと重ねて配置する事で、実際の異動時期の混乱を最小限にとどめられるよう配慮している。また、異動後も交流の機会をできるだけ作り、馴染みの関係の継続に努め、部署間でも協力し合える関係づくりに努めている。	○ グループホームは、法人内でも、認知症ケアをととして、スタッフの育成の場と位置づけられているため、今後も、スタッフの異動は予定している。その場合も、これまでと同様、ご利用者のダメージを出来るだけ小さくするよう配慮していきたい。そういった異動で、法人内にご利用者と馴染みの関係があるスタッフが増えていく事のメリットもじゅうぶんに活かしていきたい。

グループホームたのやま

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
つ			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で外部研修の機会は、かなり多く確保されており、受講希望を募ったり、各部署の管理者と相談しながら、学びの機会を提供している。法人内にスタッフ育成チームを設置し、段階に応じた研修や意見交換会の機会も提供している。毎月の苑内研修や定例全体会議においても、研修会報告や各分野の学びの機会を設けている。人事考課制度も導入し、育成面接にて、スタッフと個別にカンファレンスし、それぞれの目標設定を行なっている。	○ スタッフ育成チームの活動や、苑内研修、定例全体会議、人事考課制度などの方向性やシステムは確立してきており、また、外部研修の機会も多く確保されているが、法人全体で、そこでの学びが共有されているかについては課題が多く残っている。今後、そういった学びの場と現場をきちんとリンクさせていく必要がある。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームを新たに開設される他の法人からの依頼にて、実習生を受け入れたり、研修などでの交流の機会を通じて、その後も、継続して連絡を取り合い、ケアや運営について相談し合える関係ができてきた。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフが思いを共有し、互いに支え合ってケア実践ができるよう、カンファレンスの積み重ねを重視している。また、スタッフの様子を見ながら、運営者や管理者、リーダーが話し合い、それぞれのスタッフの現状を把握した上で、必要なサポートや環境を整えるよう努めている。法人全体で意見交換会を開催し、他部署のスタッフや同期のスタッフとカンファレンスする機会も設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの日々の取り組みについては、管理者より運営者に報告し、それぞれの育成について話し合いの機会を多く持つように心がけている。また、年2回の人事考課の際、スタッフの自己評価をもとに管理者が育成面接を行い、各自の課題や目標について話し合い、向上心を持って働けるよう努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にご家族とともに、ご利用者に面接を行い、じっくり時間をかけて思いを聴く中で、今後の暮らしをともに考えていけるよう努めている。また、必要であれば、自宅への訪問や、ケアマネ、利用サービス担当者などからも、暮らしの様子について情報収集を行なっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	開設時より、ご家族とのつながりを大切にできるよう心がけてきており、入所前からゆっくり時間をかけて話し合いをくりかえす中で、ご利用者の暮らしと一緒に支えていける関係づくりに努めている。	

グループホームたのやま

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける中で、抱えておられるリスクや、ご家族との関係、ご利用者のグループホームでの暮らしの可能性、在宅生活継続の可能性などをトータルして検討した上で入所の決定や、在宅生活の継続に必要なケアマネや他のサービスの紹介などを行なっている。また、電話などで、継続して暮らしの様子を聴く機会を持つなどしている。	○	在宅にて生活される方については、担当ケアマネやサービス担当者との連携をとりながら、私達にできることがあれば対応していければと思う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前から、ご利用者、ご家族と話し合いをくり返し、できるだけ、不安を感じずに馴染んでいただけるよう、入所のタイミングや方法などを検討している。また、必要であれば、ご家族の宿泊や、自宅への外泊や外出の機会を持ちながら、時間をかけてグループホームでの暮らしに馴染んでもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者と、一緒に暮らす中で、時間や思いを共有する事を大切にしている。その中で、ご利用者から学ぶ事は多く、ご利用者からの言葉や笑顔に支えられていると思える事も多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所前から、ご家族とのつながりを大切にしたいという思いで関係づくりに取り組んできており、ご家族にも、スタッフと一緒にご利用者の暮らしを支えるという事についてくり返し伝えていく中で、程度の違いはあるが、良い関係が築けており、ご家族に支えられていると感じる事がとても多い。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前から、ご利用者のご家族への思い、ご家族のご利用者への思いを丁寧に聴き、理解した上で援助が開始できるよう努めている。また、日々の暮らしの様子を電話や手紙などで報告したり、ご家族の訪問時は、できるだけ和やかな時間を共有してもらえよう配慮を心がけている。	○	ご利用者の重度化や認知症の症状の進行に伴い、ご家族もご利用者のその時々様子に戸惑いや不安を感じられる事が多くなってきているため、これまで以上に、きめ細かく、ご利用者の暮らしの様子や思いを伝えるようにし、訪問時などは、和やかな会話の時間をもってもらえよう、さりげなくフォローしていけるよう心がけていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や商店の方に、ご利用者の状況や必要な配慮などの説明や協力依頼の機会を持ち、関係の継続に努めている。地域の方も理解して下さり、和やかな時間が持てるよう心配りして下さっている。また、昔からの友人や知人の方が訪問しやすいような雰囲気づくり、訪問時のフォローなども心がけている。	○	暮らしの中で、ご利用者から聴く事のできた、馴染みの場所への外出や馴染みの人と会う機会づくりのため、スタッフ間で連携をとりながら、個別の外出の機会を多く持っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係を把握した上で、和やかな人間関係が保てるよう努力しているが、食事時間や、家事やその他の作業の際など、ご利用者が同じ空間に集まれる時には、互いの習慣の違いや、思いの違いからトラブルになる事が多く、スタッフも悩む事が多い。それについて、スタッフ間で話し合う事も多いが、なかなかうまくフォローする事ができない。	○	それぞれのご利用者が、認知症の症状の進行に伴い、分からない事や不安、苛立ちを感じられる事が増えてくる中、スタッフ間で連携をとりながら、さりげなくフォローしていけるよう、カンファレンスをくり返していく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開設から現在までの退所者は、在宅生活へ復帰された方が1名、入院後、亡くなられた方が1名であり、在宅での暮らしを再開された方については、退所からの3年間、ご利用者とともに、自宅を訪問したり、ご家族や地域の方、担当ケアマネや訪問介護事業所、配食サービス担当者と連携をとりながら、かかわりを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、常にご利用者の思いに真剣に向き合う事を大切にし、そこから気づく事のできたご利用者の思いを、カンファレンスにてチームで共有し、介護計画につないでいる。また、センター方式にも取り組んでいる。	○	現在のご利用者の状況や、チームの状態から、ひとりひとりのスタッフが、センター方式を活用する事の意味を理解し、チームで有効に活用していこうとしているため、その活動をとおして、チーム力を高めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	開設から4年が経過し、ご利用者ひとりひとりの、これまでの暮らしや、その人らしさに対する、スタッフの認識にばらつきが生じてきていると感じる事があるため、センター方式を有効に活用し、ご利用者のその人らしい暮らしについて、チーム全体で検討していけるよう努めている。	○	同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式への取り組みを通して、暮らしの中での、ご利用者の気持ちの動きや、持っておられる力を発揮してもらうために必要なかわりへが見えてきつつある。	○	ご利用者とのかわりの中での気づきをカンファレンスで共有したり、センター方式を有効に活用し、ご利用者ひとりひとりの現状を把握し、介護計画につなぐ事で、チーム全体で、ご利用者のその人らしい暮らしづくりをすすめていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者とともに暮らす中で、常に真剣に向き合い、思いの把握と、チームでの共有に努めている。ご家族に対しては、電話や手紙での報告や相談の機会を多く持ち、訪問時には、できるだけゆっくり話し合う時間を持つようにしている。また、地域の方や関係者とは、必要に応じて話し合いの機会を設けている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しや、新たな計画作成は行なっているが、ご利用者の重度化や認知症の症状の進行に伴い、次々と起こってくる暮らしの中での課題に対して、対応しきれない事が多い。	○	ご利用者のその時々状況や思いについて、日々のカンファレンスの中で、一つ一つきちんと確認し、ご家族や関係者と必要な話し合いを早急に行い、今、必要な支援を的確に提供できるように介護計画の作成に努める。

グループホームたのやま

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践については、個別に記録している。また、その情報をスタッフ全体で共有しやすいよう、ファイルの方法や、業務日誌への転機などの工夫をし、そこから介護計画につないでいる。また、特に、きめ細かく思いの把握を必要とされるような状況のご利用者に対しては、個別にセンター方式のシートを利用するなどして、一日を通しての思いの把握に努めている。	○	ご利用者の重度化や認知症の進行に伴い、今まで以上に、きめ細かく思いや状況を把握した上で、適切に介護計画を立て、チームにて実践していく事が求められてきているため、カンファレンスをくりかえす中で、記録やアセスメント、介護計画の様式や、活用方法について、検討していきたい。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の状況や要望に応じて、今のサービスのみにごこだわる事なく、柔軟に対応していけるよう努めている。また、総合施設である事のメリットを活かし、他部署や他職種と連携をとりながら、グループホームのみでは対応が困難な場合への支援も行なえるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	法人全体で、警察や消防、教育機関からの協力を得られる関係づくりをしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前から、法人内のデイサービスを利用されていた方については、入所後も継続して、入所前と同じサイクルで利用されている。 また、身体状況により、グループホーム内での入浴が困難な方については、併設のデイサービスセンターにて機械浴を利用して、安全に入浴してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在では、必要性が認められないが、今後必要となった場合には、地域包括支援センターとの協働をすすめていく。運営推進会議には、地域包括支援センター職員も参加しているため、協力し合える関係は築けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入所されているご利用者のほとんどが、法人の協力医療機関である、綾部市立病院がかかりつけであるため、ご家族やスタッフの付き添いのもと、継続して医療を受診できている。必要時は、ご家族、グループホームスタッフ、病院スタッフにてカンファレンスを行い、ご家族、ご利用者ともに納得のできる医療を受けられるような支援に努めている。		

グループホームたのやま

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>認知症の方や、ご家族にとって安心して医療が受けられるよう、日頃からのかかりつけ医と、良好な関係を築いていけるよう努める。また、認知症専門医や、専門的な診断や治療、アドバイスが受けられる医療機関についての情報収集にも努めていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今後も、ご利用者のその時々状況に応じ、ご家族の思いを丁寧に確認し、医療機関とも、必要に応じて、話し合いの機会を持っていきたい。また、スタッフにとっても、終末期ケアは大切な学びであり、チーム全体でしっかりと受け止めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ご利用者の重度化がかなり進行し、胃ろう造設の方や、体調により点滴や吸引の必要な方もおられる中、今後も、ご家族と話し合いをくり返し、ご家族の思いをスタッフがしっかりと受け止め、ご家族、ご利用者ともに穏やかな時間を過ごしてもらえるようなケアを進めていきたい。また、スタッフの不安の軽減や重度化に向けてのスキルアップにも取り組む必要がある。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりのご利用者に応じた対応や言葉かけを心がけ、カンファレンスにて、スタッフ間でも、自分達のかかわりについて、ふり返るようにしている。記録などの個人情報については、事務所に保管している。法人の個人情報保護内部チェックシステム委員にて、定期的に聞き取り調査も行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々のかかわりの中で、それぞれのご利用者の状態に応じて、思いを聞きだすための働きかけや、分かりやすい説明を心がけ、その人らしい暮らしを送ってもらえるよう努めている。センター方式の活用により、それぞれのご利用者に向けた説明や働きかけのあり方を検討している。	○ 今後も、継続してセンター方式の活用をすすめ、ひとりひとりのご利用者に向けた支援のあり方を検討し、チームで共有していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に、ご利用者のペースを大切にし、希望を聞きながら対応するよう心がけている。	○ ご利用者の重度化や認知症の進行に伴い、思いや希望の表現が難しくなってくる方も多く、今後、これまで以上に、一つ一つの場面で、ご利用者の思いを丁寧に確認するように心がけ、思いや希望を理解した上で支援できるよう努めていく必要がある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身体的に可能なご利用者については、在宅時からの行きつけの美容室を利用してもらっている。運営推進会議に、よく利用する美容室の方が参加して下さっているため、ひとりひとりのご利用者の利用状況について話し合っている。毎日の洋服選びや化粧なども、スタッフがサポートしながら、ご利用者の好みに応じて行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けの場面では、ご利用者の力を発揮してもらえるような支援に努めているが、ご利用者同士の間関係などから、トラブルになる事も多い。スタッフが個別にサポートし、楽しみながら作業に取り組んでもらえるよう努めている。	○ 今年度のQC活動のテーマを、「ご利用者の持てる力の発揮」としており、その中で、調理や片付けへの取り組みも検討しているため、QCサークルメンバーを中心として、今年度は、重点的に取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれのご利用者の体調や、身体状況なども考慮しながら、好みに合ったものを楽しめるよう支援している。お酒やタバコについては、現在では習慣のある人がないため、季節の行事などの際に、希望があれば、準備する事ができる。	

グループホームたのやま

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に排泄状況を記録し、排泄パターンを把握した上で、それぞれに合った支援に努めている。日中はできるだけトイレでの排泄を支援し、夜間は、それぞれの方に合わせて、ゆっくり快適に休んでいただけるような支援を心がけている。オムツやパットなども個人に合ったものを検討している。現在、1名のご利用者の排泄支援について多くの課題があり、スタッフ間で検討中である。	○	日中、夜間問わずに、排泄の失敗が多いご利用者へのかかわりが難しく、表情や様子を見ながらの声かけやトイレ誘導、失敗後の着替えなど、プライドを傷つけずに支援していく方法について、今後も継続して検討していく必要がある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	習慣や暮らしの流れに応じて声をかけ、夕方から就寝前の時間帯で入浴してもらっている。身体状況にて機械浴入浴が必要な方に対しては、併設のデイサービスセンターにて、体調を考慮しながら週2～3回の入浴を実施している。入浴を楽しんでもらえるよう配慮しているが、着替えや入浴手順が分からない事に対して、ご利用者が苛立ちや強い怒りを見せられる事も多く対応の難しさを感じる。	○	入浴前のかかわりから、入浴中の声かけ、雰囲気づくりなど、スタッフ間で連携をとりながら、楽しんで入浴し、清潔を保持してもらえるようなかかわりを検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの習慣や体調、その時々状況に合わせて、安心して休めるような環境や対応を考え対応しているが、精神的にひどく不安定な状況にあるご利用者については、なかなか安心してゆっくり休息をとってもらう事が難しい場合も多く、睡眠や暮らしのリズムが崩れてしまう事も多い。	○	ご利用者の思いの把握に努め、チームで連携をとりながら、穏やかな気持ちで過ごしてもらえるようなかかわりをしていくとともに、安心できる環境づくりにも継続して取り組んでいく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者やご家族からの聴き取りをもとに、センター方式の活用をすすめ、生活歴や力が発揮できる場面などについての情報をチームで共有し、暮らしの中で楽しさや生きがいを感じてもらえるような支援に努めている。必要であれば、ご家族や地域の方にも協力を依頼している。	○	今年度のQC活動にて、サークルメンバーを中心として、持てる力の発揮や、楽しみや生きがいづくりへの取り組みをすすめていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭は預からず、立替にて買い物など行っているが、希望のあるご利用者については、ご家族と相談し、自分で金銭を所有してもらっている方もいる。日常の買い物などで、自分でお金を支払って買い物してもらう事への支援ができていない場合が多い。	○	それぞれのご利用者の持つておられる力に応じ、金銭管理や買い物などへの支援も検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の希望にそっての外出や気分転換の散歩、買い物の機会、趣味を活かしての外出やご家族や友人の方との外出、屋外での作業などの機会をできるだけ多くもつよう心がけているが、身体状況や体調などにより、外出の機会の少ないご利用者もある。	○	身体状況や体調を考慮しながら、それぞれのご利用者に適した外出の機会をつくり、気分転換がはかれるような支援に努める。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者の希望を聞きながら、地域の行事や季節の花の見学などへの外出の機会を持てるよう努めているが、ご利用者の認知症の症状の進行や、人間関係の難しさなどから、外出の機会が減ってきている。趣味(書道展や絵画展)を活かした外出も、年数回ではあるが、個別に対応したり、ご家族に協力してもらいながら、楽しんでもらえるよう支援している。	○	平成19年度の事業報告作成の際、カンファレンスの中で、外出の機会の減少については課題として確認しており、今年度の目標としている。ご利用者の状況から難しい事も多いが、チームで支え合って前向きに実践していきたい。

グループホームたのやま

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人からの電話や手紙は頻繁で、それに対して、返事を書かれる事や、電話にて会話される事への支援はできているが、自ら行動される事への支援は、1名のご利用者を除いては、じゅうぶんな支援ができているとは言えない。	○	電話にて会話する力、手紙を書く力を持っておられるご利用者は数名おられるため、日々のかかわりの中で、ご利用者に働きかけ、電話や手紙のやりとりのできる支援を行なっていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間などに制限は設けず、いつでも気軽に訪問してもらえるようにしている。訪問時にはできるだけ和やかな時間を過ごしてもらえよう環境を整えたり、スタッフが会話のきっかけを作るなどの配慮を行なっているが、話しのつじつまが合わなかったり、不安定な様子を見せられるご利用者に対し、ご家族や知人の方も、戸惑いを感じられる場面もある。	○	ご利用者の状況に応じて、スタッフが細かい配慮をしたり、日頃から、ご利用者の状況や様子について、ご家族や知人の方と話し合う機会を持ち、できるだけ和やかな時間を共有してもらえようような支援を行っていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の思いに真剣に向き合う事から、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。府老協の研修に参加したり、法人の身体拘束ゼロ推進委員会にてマニュアルの作成や研修の機会を持ち、意識の向上に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関、他の出入り口に施錠はしていない。居室のドアについては、ご利用者が自ら施錠される以外は、施錠する事はない。また、ご利用者の外出にともなうアクシデントや事故防止のため、見守りや安心できるかかわりに努めているが、大きな事故にはつなげていないが、未確認のうちの外出というアクシデントが発生する事もある。	○	ご利用者の思いに真剣に向き合い、安心できるかかわりを心がける事で、自由に出入りできる事からくるリスクを最小限にとどめられるよう努める。また、他部署や近隣の方にも情報提供や協力依頼をし、ご利用者の安全を確保できるよう努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者と暮らしを共有する中で、自然な形で所在や様子を把握し、安全確保に努めている。夜間についても、睡眠を妨げないよう配慮しながら、見守りを行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の暮らしや気持ちの安定にとって必要なものについては、所持してもらったり、生活空間の中に置いておけるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や緊急時の対応については、マニュアルを作成している。また、ひとりひとりのご利用者の状況から予測されるリスクや対応についても、カンファレンスにて確認している。事故やアクシデント発生時には、カンファレンスや報告書にて、スタッフの危機意識の徹底を図り、再発防止に努めている。	○	スタッフの危機意識の継続や、事故や緊急時に対する不安の解消のため、今後も、研修やカンファレンスの機会をくりかえし持つようにする。

グループホームたのやま

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時や急変時の対応については、法人緊急マニュアル整備委員会を中心として、マニュアルを作成し、それをもとにグループホームの現状に即した具体的な方法を検討している。研修の機会を持ったり、救急法の講習受講をすすめているが、全てのスタッフへの実施はできておらず、また、スタッフの経験や技術などにより、不安を感じる点もある。	○	講習への参加の機会を確保するとともに、現状に即した研修などの学びの場を検討し、急変時や事故発生時に適切な対応ができるよう、スタッフの育成に努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人にて消防計画書を作成し、防火管理委員会を設置し、マニュアルを作成するとともに、避難訓練を計画、実施している。また、各部署の火気取締責任者による自主点検や、消防用設備の点検、使用訓練も行なっている。また、日中、夜間それぞれに、他部署との応援体制を確認し、それをもとに合同での避難訓練も行なっている。	○	ご利用者の状況に応じ、火災や災害時の避難誘導の方法において課題となる点について、日常から話し合う機会を持ち、現状に即したマニュアルや他部署との連携について検討をくりかえす必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者の状況や暮らしの中で予測されるリスクについて、ご家族に説明する機会を持ち、理解していただいた上で、ご利用者の思いにそった暮らしの実現とリスク管理について話し合っている。	○	ご利用者の重度化や認知症の症状の進行に伴い、体調の急変や暮らしの中での事故などのリスクも、しだいに高まってきているため、これまで以上に、ご家族に丁寧に説明し、ご利用者のその人らしい暮らしについて、一緒に考えていける関係づくりに力を入れていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	すべてのご利用者に対して、毎日の食事や水分摂取状況、排泄や入浴状況などを記録している。また、必要に応じたバイタルや血糖値測定や、月1回の体重測定を行う事などから、体調の変化や異常の早期発見と適切な対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況や目的、副作用、用法や用量について、全てのスタッフがいつでも確認できるようファイルし、看護師からも説明の機会を持っている。服薬時には、スタッフが見守りや確認、介助を行い、服薬チェックシートの記入も行なっている。症状の変化の確認や様子観察については、必要に応じて看護師から観察方法などについての説明を行っている。	○	スタッフが、ご利用者の服用されている薬の内容や、作用、服薬時の注意点などについては理解した上で、服薬援助しているが、くりかえし、確認や説明の機会を持つようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味のご利用者については、繊維質の多い食材や乳製品の摂取や水分摂取を多くするとともに、適切な運動の機会を作り便秘予防に努めている。また、排便状況を記録したり、ご利用者の様子を観察しながら、必要であれば、下剤の服用や、洗腸、摘便を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	それぞれのご利用者の状況に応じて、歯磨きや義歯洗浄、うがい、口腔内清拭などを行なっているが、精神的に不安定な事が多いご利用者については、実施が難しい事も多い。	○	口腔ケアの大切さをスタッフが認識し、研修や学びの機会を持ち、効果的な口腔ケアの方法を知るとともに、それぞれのご利用者の状況に応じて、適切な方法や働きかけの方法を検討していく。

グループホームたのやま

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全てのご利用者の食事、水分摂取量を記録し状況を把握している。それぞれのご利用者の身体状況を考慮しながら、食事形態や水分摂取の方法についても検討し、対応している。必要に応じて、レストラン部の管理栄養士とも相談している。	○	現在、胃ろう造設手術のために入院されているご利用者があり、また、他のご利用者についても、誤嚥のリスクが高まってきたため、看護師や栄養士とも連携しながら、それぞれのご利用者に適した食事について検討していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル検討委員会にてマニュアルを作成し、それをもとに現状に即した対応方法について検討している。また、感染症対策委員会からも、感染症に対する注意喚起や、具体的な対応方法についての説明が行われている。感染症が発生した場合に必要な物品については、マニュアルとともに、すぐに持ち出せるように準備している。インフルエンザの予防接種もご利用者全員に受けてもらっている。	○	1年を通して、スタッフが感染症に対する危機意識を継続できるように、日々のカンファレンスの中で、くり返し確認する機会を持つていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存や管理、調理用具の衛生管理については、レストラン部の管理栄養士から説明を受け、グループホームの状況に即した対応方法を検討し、実施している。感染症対策委員会による調査や注意喚起も行なっている。	○	危機意識継続のため、日々のカンファレンスの中で、くり返し、確認する機会を持つ。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺の花壇やプランターに花を植え、ベンチや床机を置いて、外を眺めながら、ゆっくりと談話できるようにしている。年中行事の際は、七夕飾りや、クリスマス飾り、門松やお飾りなど、季節を感じてもらえるよう雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者にとって、居心地の良い空間となるよう、季節の花を飾ったり、手作りカレンダーや、共同制作した絵、ご利用者と一緒で作ったジグソーパズルなどを飾っている。日付が分かりやすいよう、手作りの見やすいカレンダーも食堂にかけている。照明はあたたかい雰囲気の色のものにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間がふすまで仕切れる造りになっており、それぞれのスペースにテレビを置き、気の合う小グループでくつろげる空間づくりをしている。廊下や玄関、事務所内にもソファやテーブルを置き、ご利用者のその時々思いや人間関係により、ひとりになれたり、落ち着ける相手と静かに過ごせる環境作りにも取り組んでいる。		

グループホームたのやま

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合い、使い慣れた家具や好みのものを持ちこんでもらっている。居室の雰囲気作りは、ご利用者によってかなりの差があり、在宅時、介護者が男性であった方や、日中のほとんどを共同スペースで過ごされる方については、殺風景な印象を受ける場合もある。また、家具や使い慣れた道具を持ちこんでおられたが、すべて押し入れにしまいこんでしまわれているご利用者もある。	○	重度化に伴い、居室で過ごす時間が増えてくるご利用者もあるため、継続して、それぞれのご利用者にとっての居心地の良い空間づくりについて検討していきたい。また、すぐに家具や道具をしまいこんでしまわれる方についても、穏やかな気持ちで暮らしてもらえるような支援を検討する中で、以前のような、その人らしい空間作りに取り組んでいければと思う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調節などについては、常に気を配るようにしている。臭いについては、まめに清掃や消毒、換気を行ったり、特に気なる箇所については、空気清浄器や消臭器を置くなどしているが、じゅうぶんとは言えない。失禁の多い利用者についても、その時々のお気持の状態によって、なかなか衣類交換ができない場合が多く、そういった時は、かなり臭いが気になる。	○	引き続き、清掃や消毒をこまめに行うとともに、ご利用者の排泄についても、清潔を保持し、気持ち良く過ごしてもらえるような対応を検討していく。また、法人全体でも、空気清浄器や消臭器を試行的に使用してみるなどして、効果的なものを検討中である。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりや車椅子用トイレも設置している。浴室の床面は滑りにくい素材を使用しており、浴室入り口や浴槽内には、すべり止めマットも使用している。	○	歩行が不安定になってこられるご利用者も多く、これまで特に問題とならなかった箇所でも、転倒や転落のリスクが高まってきたと感じる事が増えてきたため、見守りや、さりげないサポート、適した履物、杖や老人車などの歩行補助具を検討していくとともに、常に、ご利用者にとって危険な箇所がないか、注意を払っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ひとりひとりにとって、安心して安全な環境を整えるとともに、さりげない声かけやサポートにて、持つておられる力を引き出せるような支援を心がけているが、認知症の症状の進行に伴い、分からない事が増え、不安や苛立ちを見せられる事の多いご利用者に対して、なかなかうまくかわれず、自信をなくさせてしまったり、よけい不安にさせてしまう事も多い。	○	ご利用者の思いのひとつひとつをしっかりと受け止め、分かりやすい説明や、さりげない声かけやサポートにて、できるだけ不安を感じずに、生き生きと持てる力を発揮できるような支援を、チーム全体で考えていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前付近には、花壇やプランターで花を育てている。建物の後ろに畑があり、野菜を作り、収穫を楽しんでいる。中庭にも鉢植えやプランター、盆栽などを置き、普段は洗濯物を干したり、過ごしやすい季節には、バーベキューを楽しんだり、お茶を飲みながら、和やかな会話の時間をもったりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームたのやま

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設時より、ご家族や地域の方とのつながりを大切にし、ご利用者の暮らしをともに支えていける関係づくりに努めている。